

ぶどう膜炎鑑別の最新知見 —研究から臨床へ—



日時 2022年4月16日(土)7:45～8:45

会場 第3会場(大阪国際会議場 10階 1001-1002)

WEB配信 詳細は学会ホームページをご確認ください。



座長

後藤 浩 先生
東京医科大学
臨床医学系眼科学分野
主任教授

ぶどう膜炎は比較的希少な疾患であるにもかかわらず、鑑別すべき病態が数多くあり、日頃から先生方も診断と治療に苦労されていることと思います。そもそもぶどう膜炎の場合、その原因が感染症なのか否かを見極める必要があり、感染症であれば病原微生物は何であるのかを明らかにしなければ治療も始めようがありませんし、非感染性のぶどう膜炎であれば、その背景に潜む原疾患を明らかにしない限り根本的な解決には結びつかない可能性があります。

そこで本セミナーでは日頃からぶどう膜炎の基礎的研究に取り組み、その成果を臨床の現場に還元されているお二人の先生にご講演をいただくことにしました。大分大学の中野聰子先生からは、先生ご自身による獅子奮迅の活躍によって、現在は先進医療として臨床応用されている眼内液を用いた多項目PCR検査の実際について、その概略から検査の具体的な実施方法についてお話をいただきます。また、東京医大の臼井嘉彦先生からは眼内液や採血データから得られた情報をもとに、機械学習の手法を応用したぶどう膜炎の診断に向けた取り組みについて、その展望を含めて紹介していただきます。

お二人の先生に共通している点は、ぶどう膜炎の診断精度を少しでも上げ、適切な治療へ結びつけていこうとする姿勢にあるといえます。本セミナーを通じてぶどう膜炎の診断に向けた最新の取り組みについて理解を深めていただければ幸いです。

講演①

感染性ぶどう膜炎・多項目PCR検査 —臨床使用のコツ—

中野 聰子 先生
大分大学医学部 眼科学講座 助教



講演②

ぶどう膜炎診療における 人工知能を用いた鑑別の試み

臼井 嘉彦 先生
東京医科大学 臨床医学系眼科学分野 准教授



ぶどう膜炎鑑別の最新知見 —研究から臨床へ—

日時 2022年4月16日(土)7:45~8:45

会場 第3会場(大阪国際会議場 10階 1001-1002)

WEB配信 詳細は学会ホームページをご確認ください。



座長 後藤 浩 先生 東京医科大学 臨床医学系眼科学分野 主任教授

【略歴】

- 1984年 東京医科大学 卒業
 1988年 南カルフォルニア大学Doheny Eye Institute 留学
 1993年 東京医科大学眼科 講師
 2002年 東京医科大学眼科 助教授
 2006年 東京医科大学眼科 教授
 2007年 東京医科大学眼科 主任教授

講演1: 感染性ぶどう膜炎・多項目PCR検査 —臨床使用のコツ—



演者 中野 聰子 先生 大分大学医学部 眼科学講座 助教

【略歴】

- 2002年3月 大分大学(旧:大分医科大学)医学部 卒業
 2002年4月 大分大学(旧:大分医科大学)眼科 医員
 2004年7月 国家公務員共済組合連合会 新別府病院 医員
 2014年3月 大分大学医学系研究科博士課程医学専攻 修了
 2015年3月 大分大学眼科 臨床特任助教
 2017年7月 大分大学眼科 助教

第3回ぶどう膜炎全国疫学調査では、以前は5位であったヘルペス性虹彩炎の割合が、3位と増加しました。これには、感染性ぶどう膜炎多項目PCR検査キットの普及が影響したとされています。

本キットは微量前房水・硝子体に対応し、簡便・迅速で、主要病原体 9 項目を同時検出することが可能です。現在では先進医療や外注として、44都道府県に普及しています。新型コロナウイルス感染症で、ポータブル型を含むPCR機器が全国に普及し、診断の最前線である地域の中核病院やクリニックにも広がり、加療前の病因診断があたりまえとなってきました。早期診断による予後改善のみならず、治療効果判定、非感染性ぶどう膜炎におけるステロイド薬等の投与前のリスク管理にも役立っています。また、続発緑内障の鑑別にも用いられています。

本講演では、多項目PCR検査の具体的な導入方法、適切な検体選択、注意すべき点について具体的に解説したいと思います。

講演2: ぶどう膜炎診療における人工知能を用いた鑑別の試み



演者 白井 嘉彦 先生 東京医科大学 臨床医学系眼科学分野 准教授

【略歴】

- | | |
|---|-------------------------------|
| 2001年 東京医科大学医学部 卒業 | 2015年 東京医科大学眼科学教室 講師 |
| 2002年 南カルフォルニア大学Doheny Eye Institute 留学 | 米国スクリプス研究所 客員准教授 |
| 2003年 順天堂大学免疫学教室 研究員 | 2020年 東京医科大学臨床医学系眼科学分野
准教授 |
| 2007年 東京医科大学眼科学教室 助教 | |
| 2012年 東京医科大学眼科学教室 講師 | |
| 2013年 米国スクリプス研究所 研究員 | |

ぶどう膜炎は多種多様な疾患であり、診断へのプロセスが複雑なため、ぶどう膜炎を専門とする眼科医でも診断に難渋することは少なくありません。そのような背景の中、昨今、“AIカンブリア爆発”と呼ばれ、大きな発展の真っ只中にある人工知能の恩恵によってぶどう膜炎診療の道標を示すことができれば、眼科医療として大きな価値があると思われます。糖尿病網膜症や緑内障が人工知能の臨床実装段階にあり、臨床応用には程遠い黎明期といえますが、我々は、機械学習を用いた眼内液中のサイトカインによる炎症性眼疾患の識別、採血検査によるぶどう膜炎の分類のほか、オミックス解析などで得られた大量のデータを活用したぶどう膜炎の識別やクラスター解析による疾患の層別化に取り組んできました。本講演では、これらの我々の取り組みについて紹介することで、若手研究者が、ぶどう膜炎や人工知能研究を考えるための一助になればと考えております。